

「モノづくり・起業」分野

- 1 目的 モノづくりの現場での見学や講義を通して、様々な分野の人々が協働してモノが作りあげられていく様子やモノづくりのための工夫や技術を知ること、モノづくりの楽しさや地方と世界をモノづくりがつなぐ様子を知り、地方創生をテーマとする課題研究における課題発見・解決の糸口とする。
- 2 日時 平成28年6月22日（水）13：10～16：10 [A週65分]
- 3 場所 今治造船株式会社（丸亀市昭和町）
- 4 参加者 1年生「モノづくり・起業」分野選択者43名（男子38名、女子5名）、教員3名
- 5 内容等

バスで、今治造船丸亀事業本部を訪問した。まず、「船ができるまで」をDVDで視聴し、世界を視野に入れた船の開発や船の製造工程、瀬戸内という環境を生かしたサプライチェーンなどについて説明を受けた。それから2グループに分かれて、工場見学を行った。84000トン貨物船の居住区やエンジンルーム等の見学、波との抵抗を計測する水槽の見学、設計部門での船体等3D操作等の見学、広大な工場内をバスで移動しながら巨大な船の製造現場の見学等を行った。生徒は、モノづくりの現場を直に体感することで、モノづくりの楽しさや誇りを持って取り組む姿勢を知ったようだ。また、質疑応答では、船の注文は日本の企業と限らず、また船のスタッフは外国人であることが多いため、船のマニュアルは英語で作成していること、そのため、社員の英語教育にも力を入れていること等を知り、生徒は英語の必要性を実感した。



6 生徒の主な感想

- ・モノづくりの楽しさを感じた。 ・モノづくりについて、とても興味を持てた。
- ・船を作っている姿を見たり、船に乗ったりすることができ、本当によかった。間近で見ることができ、とても面白く、とてもよかった。
- ・初めて見たり聞いたりすることばかりでとても楽しかった。
- ・専門的な機械があり驚いた。 ・船を造る過程まで細かく分かり良かった。
- ・モノづくりは、楽しそうな反面、危険な面を持っていることが分かった。
- ・モノづくりに様々な人が関わり、地域にはなくてはならないものだと感じた。
- ・安心と信頼を兼ね備えて業務に取り組んでいることが分かった。
- ・仕事はチームワークが必要ということが分かった。
- ・モノづくりをしている人の細かいところまでこだわる姿勢がかっこよかった。
- ・現場で働く人々には自分たちの意志があり、誇りをもって働いていることが分かった。
- ・今治造船では、いろいろなことを工夫しているので世界で戦えると分かった。
- ・今治造船は、日本だけでなく世界を見据えていることが分かった。これからの自分にとって良い経験となった。
- ・今治造船の地域に対する取り組みがよく分かった。 ・雇用などの点で地方創生をしていた。
- ・グローバル化の中で大切になってくる「関係」の強さを見出すことができた。
- ・造船業にも英語が必要なことが分かったので、英語を勉強して今後の活動に生かしたい。
- ・モノづくりは人の役に立つというやりがいがあることを改めて感じた。
- ・モノづくりによって、地方創生が進んでいるのを目で見ることもできた。